
チャンス。

愛生

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

チャンス。

【Nコード】

N3726BA

【作者名】

愛生

【あらすじ】

柊早紀はずっとずっと孤独だった。家にも学校にもどこにも居場所はない。そんな孤独にも慣れてしまった。そんな時、美依という謎の少女が現れた！？「早紀を孤独から救いにきた」その本当の意味って・・・？

孤独

私はずっと孤独だった

何をしていてもどこにいても

私の居場所なんてどこにもなくて。

ずっとずっと一人で

いつの間にか

そんな【孤独】の怖さや苦しさも

忘れかけてた

それは、6月のある大雨の日だった。

「ちょっとどうしよー！宿題忘れたーっ」

「えーどうすんのよ瑠璃ーっ」

「そういう瑞希こそどうなのよっ」

「………忘れた」

キャハハハハハハハッ

教室に響く甲高い笑い声。

ザーザーと音を止めない雨。

この【教室】の中にいるみんなはきつと

こんな音なんて気にしていないのであろう。

私だけ―

柊^{ひいらぎ}早紀^{なき}だけは

その【音】に耳を澄ましていた。

1人きりでこの朝の休み時間をすごしているとき、

必ず皆の笑い声を聞くようにしてる

それは孤独から逃げてるんじゃない

逃げてたころの癖なだけ。

なんでこんなに1人なのかな

家にも学校にもどこにも居場所はない。

ずっとずっと1人なんだ。

*

雨が降り続く中、

私は傘をささずにゆっくり歩いていた

なぜだか、落ち着くんだ、傘をささないほうが。

そして、少し遠回りをして帰っていた。

ドンッ

ぼーっとしていると、何かにぶつかった。

「すみません」

その一言だけ言って立ち去ろうとした。

するとー・・・

「今時、傘を忘れてゆっくり歩いて帰る馬鹿がいるんだね」

ぶつかった相手はそう言って、私に傘を差し出した。

「いらないです」

キツパリ言って立ち去ろうとしたけど腕をがっちり捕まれた。

相手はどうやら、私より年下の女子。

中1か？

「ははっなーにもあげようと思ってないよ。ただ、濡れてるのかわいそうだから。一緒に入ろう」

「いいです」

何、この変わり者

「なーにつ相合傘とか気にしてる？好きな子とだけじゃないと嫌な感じがw？」

「そんなんじゃないやありません。」

年下のくせにタメ口きいてくるし

「きゃーっ相合傘気にしちゃって乙女」

てか、上から目線？なんかウザイ

「年下のくせになんなのよさっきから」

ギロツと睨んでやった。

「キャハハハハッ何言ってるのよw同い年じゃない」

「・・・は？」

ただチビなだけですか。

「あんたは、柊早紀。その東中学に通う中2でしょ?。」

「なっんで知ってるの・・・?。」

「そして私は美依^{みい}。あんたと同年。」

どうやら美依と名乗る彼女は、私の話など聞く気がないらしい

「・・・美依さん、なんで知ってるのよ。」

「気にすんなッッ　私はあんたの何でも知ってる。」

えっ・・・・・・?

「あ・・・あの事も?。」

私はパツと捕んだ腕を振り払った。

「あの事って何？」

「何でもない。」

「ふーん・・・まあいいや、こっち来てよ」

「は？」

そのまま美依はまた私の腕をつかんで
引っ張ってきた。

「そんなに引っ張らないでよ！警察に通報するからっ！」

・・・

「（笑）やっぱ早紀ちゃん你真面目でいい子だねえー・・・」

ズキンッ・・・

「うるさい、何なのよさつきから！私のこと何でも知ってるとか言
って・・・」

「まあまあ・・・お願いだからついてきてよ」

「なぜ？理由は？」

「私は早紀を救いにきたの。孤独からね」

「ーは？」

きつとつねは

神様が私にくれた

ラストチャンスなのかもしれません

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3726ba/>

チャンス。

2012年1月9日19時50分発行